



『地獄のレストラン』（4月25日）を振り返って・・・

「地獄のレストラン」。自分で料理を食べようとしても、おはしが長いせいで、だれも上手に食べられない。互いのせいにして、ののしり合う。まさに「地獄」。一方、「天国のレストラン」では、楽しそうな声、みんなの笑顔。「地獄のレストラン」と同じ条件なはずなのに・・・。

一人ひとりが「思いやり」の心を持ち、「協力」する。それが「天国」と「地獄」の違い。みんなが毎日を過ごす教室が「天国のレストラン」のような場所になるかどうかは、あなたの行動や思いやりにかかっています。

<みんなの感想より>

- 僕が目指すクラスはやさしく思いやりのたえないとても心のきれいなクラスです。そんなクラスをつくるためにはまず相手のことを受け止める。そして、もう一つは相手のペースも考えるということです。（男子）
- 天国の部屋にいる人は成績がいいとかいう意味ではなく頭がいいのだと思いました。だれかのために何かをしようと思うことは難しいし、それを実践するのはもっとむずかしいのに、笑顔でできるというのは、それをするとうなるかわかっているのだと思います。（女子）
- 今のクラスはぼくは「天国」だと思います。なぜなら今のところ大きなけんかもないし、楽しいクラスで助け合っているからです。だからこれから地獄になりそうになったら、その原因を見つけ、天国にもどれるようにみんなで協力できたらいいなと思いました。（男子）
- 使うものもルールも全部一緒でもその人たちの考え方、気持ちによって、良くも悪くもなるということがわかりました。自分の身の回りにも同じようなことはたくさんあります。たとえば授業中の教室。クラスのみんなが自分勝手に口々にしゃべったり遊んだりしていたら「地獄の教室」です。でもみんなが勉強しようという意欲を持ち、みんなのことを考えて授業を受けたらそれは「天国の教室」になります。このように考え次第で物事はよくも悪くもなることがわかったので、今後の生活にも学んだことを生かしていきたいです。（男子）
- 同じ部屋、同じ料理、同じルールでも天国と地獄では大きく違い、天国ではみんなが助け合って食べているのでみんな楽しそうで、でも地獄はその逆でみんなののしり合い、いらいらしているので、みんなの気持ちの持ちようで大きく変わることがわかりました。これから私は誰かが困っていたり、助けを求めている人がいたら、助けられる人になりたいです。今後の生活に活かしていけたらと思います。（女子）
- 私たちのクラスをよりよくするためにはまずみんなをまとめ、みんなの意見を尊重する人になること。わからないときは誰にでもあるからみんなの知識を出し合い、それを実行していけばいいと思う。そして他のクラスの先生に「あのクラスまとまりがあっていいね！！」と言われるようなクラスにしていきたいです。（女子）
- 私は地獄の部屋はお互い協力せず一人でなんとか食べようとしていて正直暗いイメージで何も楽しくないと思った。しかし、それに比べて天国はお互い協力しあって楽しそうな感じでとても笑顔の絶えない空間だった。この授業ではお互い助け合うことが大事ということがわかりました。（女子）
- 僕は「地獄のレストラン」を読んで、このクラスを天国のレストランのようにしたいと改めて思いました。そのためには、協力することや、思いやりの心が不可欠です。だから僕は1年後このクラスがよかったと思えるようなクラスにするために、いろいろな人と仲良くなって、思いやりの心を忘れないようにしたいです。（男子）